2023年12月21日

女子体操競技情報33号

（公財）日　本　体　操　協　会
パリオリンピック強化委員会
女　子　体　操　競　技　強　化　本　部
審判委員会体操競技女子審判本部

日本体操協会では、パリオリンピック強化委員会体操競技女子強化本部による2024年強化指針と審判委員会体操競技女子審判本部による2024年採点指針をここに通達し、この通達をもって適用といたします。

2024 年 強化指針

パリオリンピック強化委員会
女子体操競技強化本部長
田中　　光

ナショナル 2024 パリ強化

2023 アントワープ世界選手権では、団体予選 8 位、団体決勝 8 位、岸 里奈選手が個人総合で 11 位、畠田 千愛選手が 17 位、宮田 笙子選手が跳馬 6 位、芦川 うらら選手が平均台 5 位とメダルは取れませんでしたが、パリ五輪の団体出場権利は獲得することができました。

今回の世界選手権を経て、改めて多くの課題を認識しております。団体予選・団体決勝を通して団体でメダルを狙うためには､最低限 165.000 以上の得点を獲得できる戦力が必要と感じました。今後は、パリ五輪に向けて跳馬 42.000、段違い平行棒 40.500、平均台 42.000 ゆか 40.500 の合計得点 165.000 を超えるための強化をスタートさせたいと思います。個人総合でメダルを獲得するためには、最低限 56.000 を超える得点を目指さなければなりません。現在の日本のトップは世界で 54.000 程度となるため、まずは 55.000 を超えることが必要と考えます。

2023 世界選手権の結果から、種目別でメダルを狙うためには、跳馬では D スコア 5.60、5.40、5.00 の跳躍技が 2 本必要となり平均得点は 14.000 を超えること、段違い平行棒は 15.000、平均台は 14.500、ゆかは 14.000 を超える実施を目指す必要があります。

2024 パリ五輪は、団体でのメダル獲得を一番の目標とし、団体、個人総合、種目別のいずれかにおいて銀メダル以上のメダルを 1 つ以上獲得するために、皆で力を合わせた全力強化に取り組みたいと思います。

以下の種目目標を達成するために、計画的かつ継続的に強化合宿を実施して強化に取り組みます。

＜跳馬＞

D スコア 5.00 以上の技は必須。積極的に D スコア 5.40 以上の技に取り組み、メダル獲得を目標とします。高い D スコアの跳躍技を推奨しつつも、E スコア 9.000 を超える実施につながる美しい姿勢と正確で雄大な跳躍を実現し、14.000 を超える得点を目指します。具体的には、「D スコア・E スコアの向上」「ダイナミックな第２空中局面の実施」「着地を止める」強化に取り組みます。

＜段違い平行棒＞

とにかく美しい姿勢と正確で安定感ある完成度の高い実施を目指します。そのため、E スコアは 8.000 超えを目指し、確実に 13.500 以上の得点につながる強化を行います。具体的には、「D スコア・E スコアの向上」「倒立角度の正確性の向上」「終末技の着地を止める」強化に取り組みます。

＜平均台＞

引き続きアクロバット系の技の技術向上、ダンス系の技のジャンプの高さアップと姿勢の改善に取り組み、メダル獲得を目標とします。E スコアは 8.000 超えを目指し、14.000 以上の得点につながる強化を行います。具体的には、「アクロバット系およびダンス系の技の空中姿勢の正確性の向上」「着台のふらつきをなくす安定性の向上」「終末技の着地を止める」強化に取り組みます。

＜ゆか＞

これまでと同様にビッグタンブリングの獲得、ダンス系の技のジャンプの高さアップと姿勢の改善、演技全体の表現力の改善に取り組みます。E スコアは 8.000 超えを目指し、確実に 13.500 以上の得点につながる強化を行います。具体的には、「D スコア・E スコアの向上」「アクロバット系およびダンス系の技の空中姿勢の正確性および雄大性の向上」「全ての着地を止める」強化に取り組みます。

ジュニアナショナル 2028 ロサンゼルス五輪･2032 ブリスベン五輪強化

2024 年のジュニア強化指針として、将来的に世界をリードする選手になるための「徹底した基本技術の習得」を一番の目標におきます。基本に忠実で正確な技術からなる「美しい体操」を目指すとともに、将来、世界で金メダルが取れる人材の輩出に焦点をおいた「跳馬の D スコア・E スコアアップ」、「段違い平行棒の支持回転系の技、け上がり～後ろ振り上げ倒立の技術の向上」、「平均台とゆかのダンス系の技の高さと姿勢の改善」、「ゆかのタンブリング技術の向上」、さらに芸術性の高い演技を目指した「コレオプログラムの充実」に取り組みたいと思います。

そして 2028 年ロサンゼルス五輪では、団体、個人総合、種目別のいずれかにおいて、１つ以上の金メダルを獲得することを目標とし、U-15 ジュニア強化改革に取り組みたいと思います。

＜跳馬＞

ジュニア選手の年齢や発育・発達に配慮しながら以下の 2 軸を強化の骨子とし、将来シニア選手として活躍するための準備に取り組みます。

①走力強化から跳躍板の強い蹴り
②第 2 空中局面での身体操作能力向上を目的とした感覚練習

＜段違い平行棒＞

ジュニア選手の年齢や発育・発達に配慮しながら以下の 2 軸を強化の骨子とし、将来、高難度の演技構成の習得に備えた基本技術の習得に取り組みます。

①美しい姿勢を保ちつつ、正確な身体操作ができることを目的としたトレーニングの徹底
②バーのしなりを理解して質の高い運動を習得できるような段階的な基本要素習得

＜平均台＞

ジュニア選手の年齢や発育･発達に配慮しながら以下の身体的強化と技術習得の 2 軸を強化の骨子とした強化を進めます。

①高いトウ立ちを基本とした美しい姿勢の習得と、十分な高さと開脚度のあるジャンプの強化
②将来、高難度の技を実施するために必要となる質の高い基本技術習得

＜ゆか＞

ジュニア選手の年齢や発育・発達に配慮しながら以下の 2 軸を強化の骨子とし、表現力、柔軟性の向上、質の高いダンス系要素の習得を目的とした強化を進めます。

①身体操作能力の向上及び空中感覚の習得（神経系トレーニング）
②将来、高難度の技を実施するために必要となる質の高い基本技術習得

2024 年 採点指針

審判委員会体操競技女子審判本部

パリオリンピック強化本部より、2024 年開催されるパリオリンピックにおいて日本がメダルを獲得することを目指した目標と、さらにその先の 2028 ロサンゼルスオリンピック、2032 ブリスベンオリンピックを視野に入れた強化方針が打ち出されました。2024 年の最大の目標は日本選手がパリオリンピックにおいてメダルを獲得することですが、同時にその先のオリンピックに向けて今から技の習得や基礎の見直しなど日本全体で強化を進めていかなければなりません。2023 アントワープ世界選手権では、代表選手の活躍により見事予選第 8 位となり、団体決勝に進出するとともに 2024 パリオリンピックの団体出場権を獲得することができました。日本女子は現在のところ 2008 年北京オリンピックから 5 大会連続で団体出場権を獲得しています。今やオリンピックに団体出場することが当たり前のような感覚となっていますが、今回の世界選手権の予選の結果を見ても第 8 位からオリンピック出場権獲得が叶わなかった第 13 位のドイツまでの間の得点差はわずか 1.3 あまりしかなく、わずかな差で順位は一変する状況にあります。今回第 13 位であったドイツだけでなく前回大会の東京オリンピックに団体出場をしたベルギーやスペインもパリオリンピックの団体出場を逃しています。この状況からも今回の結果に甘んずることなく、現在の日本が抱える課題を克服し、強化を進めていかねばならないと考えます。特に段違い平行棒の強化は急務です。世界の強豪国だけでなく、日本と台頭する国、また大会の順位では下位に位置する国と比較しても、演技構成面、基本技の姿勢や技術においても課題があると言えます。また、ゆかにおけるアクロバット系・ダンス系の技の高さ、着地姿勢の改善、さらにはダンス系の技の姿勢の改善が必要です。これらの課題については、これまで採点上の最重要視点と位置付けてきた美しい姿勢での演技に加え採点上の重要な視点とします。これらを踏まえ、2024 年の国内競技会ではパリオリンピックの代表選考に関わる競技会と、その他すべての国内競技会に分けた指針を掲げ、それに基づき採点を行います。さらに次世代を担うジュニア期の選手には、立つ、歩くなどの基本的な動作やけ上がり、後ろ振り上げ倒立、難度の低いジャンプやターンなどの基礎的な技を欠点なく美しい姿勢で実施できること、また基本的な技の正しい技術の習得を目指すためにその他の競技会とは別に 15 歳以下のジュニア選手に対する指針を提示いたします。

◆パリオリンピック　代表選考競技会◆

パリオリンピック代表選考競技会ではすべての種目において以下の 3 項目を採点上の最重要項目として採点をします。

対象競技会：第 78 回全日本個人総合選手権大会、第 63 回 NHK 杯

① 欠点のない美しい姿勢での正確な技の実施
② 安定感のある技の実施による完成度の高い演技
③ すべての技の実施において、着地の先取りができた高い体勢での安定した着地

◆その他すべての国内競技会に向けた指針◆

2024 年の国内競技会では以下の 3 項目を採点上の最重要項目として採点をします。
ただし、15 歳以下の選手を対象とする競技会は、後述「15 歳以下の選手強化に向けた指針」を適用します。

① 身体の細部までコントロールされた常に美しい姿勢での演技
② 欠点のない正確な技の実施
③ 着地の先取りができた高い体勢での着地

各種目について

＜跳馬＞

① D スコアの高い跳躍技の実施
② 跳躍全体にスピード感があり、高さと距離を伴うダイナミックな実施
③ 着地の先取りができた高い体勢での安定した着地

【採点上の留意点】

- 各局面において著しい技術不良が見られる跳躍については、各減点項目を有効に活用し厳密に減点をする。第 1 空中局面、支持局面にも注視し、第 10 章跳馬「種目特有な実施減点」を有効に活用し減点をする。
- ダイナミックさに欠ける跳躍については、跳躍の大きさだけでなく、技の難易度から受ける迫力や雄大性などを加味し、第 10 章跳馬「種目特有な実施減点」の「ダイナミックさに欠ける」の減点項目に則り、明確に差をつける。

＜段違い平行棒＞

① 腕の曲がり、膝・つま先の緩みがない美しく伸びた体線での正確な技の実施
② 車輪系の技や支持回転系の技、空中局面を伴う技の振幅が大きいダイナミックな実施
③ 多様な技を組み入れ、組み合わせ点を獲得できる演技構成*
　＊ただし、①②を満たせていない実施に対しては厳密に減点をする。

【採点上の留意点】

- 上記の指針内容に沿わない姿勢欠点がある実施に対しては、第 8 章「一般欠点と減点表」、第 11 章段違い平行棒「種目特有な実施減点」の減点項目に則り、厳密に減点をする。
- け上がり、後ろ振り上げ倒立や支持回転系の技などの基本技の姿勢においては特に注視し、膝やつま先の緩みが見られる実施や、身体の姿勢が悪い実施に対しては、第 8 章「一般欠点と減点表」、第 11 章段違い平行棒「種目特有な実施減点」の「倒立、または振り上げ倒立の身体の姿勢が悪い」の減点項目に則り減点をし、明確に差をつける。
- 各技の振幅が小さい実施に対しては、第 8 章「一般欠点と減点表」の「技の高さ（大きさ）が不十分」の減点項目を有効に活用し減点をする。

＜平均台＞

① 立ち姿勢や歩く姿勢も含め、常に身体の細部までコントロールされた美しい姿勢での演技
② –正確で安定したアクロバット系の技の実施
–ジャンプ・リープ・ホップに高さと身体のハリがあり、すべてのダンス系の技において姿勢欠点がない正確な実施
③ 身体を最大限に使い、演技全体に流れのある芸術的な演技
④ 高い D スコアの獲得を目指した演技構成

【採点上の留意点】

- 演技全体を通して身体の姿勢が悪い、膝・つま先が緩む、身体を最大限に使えていない演技に対しては、第 12 章平均台「芸術性と構成の減点」の「演技全体を通して芸術的表現に欠ける」の減点項目に則り、厳密に減点をする。
- アクロバット系の技において、姿勢欠点がある実施や正確さに欠ける実施に対しては、第 8 章「一般欠点と減点表」の減点項目に則り、厳密に減点をする。
- ジャンプ・リープ・ホップは特に注視し、高さが不十分な実施や姿勢欠点がある実施、正確さに欠ける実施に対しては、「技の高さが不十分(0.10/0.30)」「身体の姿勢の減点(0.10/0.30/0.50)」「正確さ(0.10)」の減点項目に則り、厳密に減点をする。

＜ゆか＞

① 立ち姿勢や歩く姿勢も含め、常に身体の細部までコントロールされた美しい姿勢での演技
② –アクロバット系の技の高さがあり、着地姿勢までコントロールされた正確な実施
–ジャンプ・リープ・ホップに高さと身体のハリがあり、すべてのダンス系の技においてコントロールされた正確な実施
③ 身体を最大限に使い、表情を含め表現力豊かで芸術的な演技
④ 高い D スコアの獲得を目指した演技構成

【採点上の留意点】

- 演技全体を通して身体の姿勢が悪い、つま先が伸びない、足が内向き、べた足での演技に対しては、第 13 章ゆか「芸術性と構成の減点」の「身体の姿勢が悪い」、「美しさに欠ける足の動き」の減点項目に則り、厳密に減点をする。

－ アクロバット系の技において姿勢欠点がある実施、高さが不十分な実施に対しては、第 8 章「一般欠点と減点表」の減点項目を有効に活用し、減点をする。
－ ダンス系の技は特に注視し、高さが不十分な実施や姿勢欠点がある実施、正確さに欠ける実施に対しては、「技の高さが不十分(0.10/0.30)」「身体の姿勢の減点(0.10/0.30/0.50)」「正確さ(0.10)」の減点項目に則り、厳密に減点をする。
－ 演技全体を通して身体を最大限に使えていない、テーマに合った表情や表現力に欠ける演技に対しては、第 13 章ゆか「芸術性と構成の減点」の「大きさ不十分」「音楽のスタイルと一致した表現力の欠如」「身体の各部位が芸術的表現に十分関与していない」の減点項目に則り、厳密に減点をする。

◆15 歳以下の選手強化に向けた指針◆

15 歳以下の選手を対象とする競技会においては、次世代の選手育成を強化するために他の競技会の指針からさらに基礎基本を重要視した指針を以下のように示します。

対象競技会：全日本ジュニア選手権大会東西決勝大会 A クラス B クラス C クラス
全国中学校体育大会
全国ブロック選抜 U-12 体操競技選手権大会
全国体操小学生大会
その他、この年齢層を対象とした各地での大会（クラブ対抗など）

※全日本ジュニア選手権大会選手権 1 部については、全日本選手権の予選となる大会のため、その他すべての国内競技会の分類とする

＜全体として＞

① 身体の細部まで常に意識された<u>美しい姿勢</u>
② 技術欠点、姿勢欠点のない<u>正確な基本技</u>

＜跳馬＞

① 助走から着手までのスピードと鋭い突き上がりのあるダイナミックな跳躍
② 第 1 空中局面、支持局面に欠点がない正確な実施
③ 着地の先取りができる跳躍

＜段違い平行棒＞

① 腕の曲がり、膝・つま先の緩みがない美しく伸びた体線での正確な技の実施
② け上がり、後ろ振り上げ倒立や支持回転系の技において、姿勢欠点がない正確な技の実施
③ 振幅の大きな車輪系の技、支持回転系の技、終末技の実施

＜平均台＞

① –美しい脚のラインと重心が高い立ち姿勢
–高いトウ立ちとつま先まで意識された美しい足の動き

② –姿勢欠点がない正確なアクロバット系の技の実施
–ジャンプ・リープ・ホップに高さと身体のハリがあり、すべてのダンス系の技において姿勢欠点がない正確な実施

③ 身体を最大限に使い、演技全体に流れのある芸術的な演技

＜ゆか＞

① 立ち姿勢や歩く姿勢も含め、常に身体の細部までコントロールされた美しい姿勢での演技

② –アクロバット系の技の高さがあり、着地姿勢までコントロールされた正確な実施
–ジャンプ・リープ・ホップに高さと身体のハリがあり、すべてのダンス系の技においてコントロールされた正確な実施

③ 身体を最大限に使い、表情を含め表現力豊かで芸術的な演技

【跳躍や演技を試みなかった場合の国内対応】

国内競技会においては、従来通り、グリーンライトの点灯またはD1審判員からの演技開始の合図の後、選手がD審判員に挨拶をし、跳躍板や器具に触れてから再び挨拶することで0.00点として扱うこととする。（すべての種目）

【落下による中断時間中に止血が必要であると判断された場合の国内対応】

国内競技会においては、選手が器械から落下した際、演技続行の意志はあるが、止血が必要な状態であると医師または審判長が判断した場合、落下による中断時間（UB30秒、BB10秒）を超えて演技を中断しても減点なしで演技を再開することを認める。落下による中断時間（UB30秒、BB10秒）は、止血後から計時を始める。ただし、演技続行できないような怪我と医師が判断した場合は、この限りではない。（状態によっては演技続行不可と判断されることもある）

付録

【タイブレークの基準について】

＊この規則は、FIG 競技規則によるオリンピック、世界選手権等 FIG 主催の競技会に向けた規則です。国内の競技会においては、各競技会の主催団体によって、この規則を準用または参考にし設定をしてください。

競技規則　FIG Technical Regulations 2024（抜粋）

第２章　体操競技に関する特別規定

第７条　タイブレーク　ルール

第７条 7.1 予選

すべての決勝への出場資格：
同点の場合、どの順位においても、以下の通りの基準で順位を決定させる：

第７条 7.1.1 団体総合決勝のための予選

団体総合決勝の出場資格を獲得するためのポイントが同点の場合は、以下の基準を尊重して順位が決定される：
獲得した各種目のチーム得点の合計が最も高いチームが上位となる（つまり、男子は最も高い5種目のチーム得点の合計、必要に応じて4種目、3種目、2種目、1種目の得点の合計、女子は最も高い3種目のチーム得点の合計、必要に応じて2種目、1種目の得点を合計することによる）
さらに同点の場合は、どちらのチームも同じ順位とする。同点のチーム間で抽選を行い、団体総合決勝のスタート順を決定する。

第７条 7.1.2 個人総合決勝のための予選

個人総合決勝の出場資格を獲得するためのポイントが同点の場合は、以下の基準を尊重して順位が決定される：

１．獲得した各種目の最終スコアの合計が最も高い選手が上位となる（つまり、男子は最も高い5種目の最終スコア、必要に応じて4種目、3種目、2種目、1種目の得点を、女子は最も高い3種目の最終スコア、必要に応じて2種目、1種目の得点を合計することによる）
２．さらに同点の場合は、すべての種目のEスコアの合計が高い選手が上位となる
３．さらに同点の場合は、すべての種目のDスコアの合計が高い選手が上位となる

さらに同点の場合は、どちらも同じ順位とする。同点の選手間で抽選を行い、個人総合決勝のスタート順を決定する。

第７条 7.1.3 種目別決勝のための予選

跳馬を除くすべての種目において種目別決勝の出場資格を獲得するためのポイントが同点の場合は、以下の基準を尊重して順位が決定される：

１．Eスコアが最も高い選手が上位となる

２．Dスコアが最も高い選手が上位となる

さらに同点の場合は、どちらも同じ順位とする。同点の選手間で抽選を行い、種目別決勝のスタート順を決定する。

跳馬における種目別決勝の出場資格を獲得するためのポイントが同点の場合は、以下の基準を尊重して順位が決定される：

１．最終スコアを平均する前の2回の跳躍のスコアのうち、最も高いスコアをもつ選手が上位となる

２．2回の跳躍のうち、どちらか一方のEスコアが高い選手が上位となる

３．2回の跳躍のうち、どちらか一方のDスコアが高い選手が上位となる

さらに同点の場合は、どちらも同じ順位とする。同点の選手間で抽選を行い、種目別決勝のスタート順を決定する。

第７条 7.2 決勝

第７条 7.2.1　団体総合決勝

団体総合決勝においてポイントが同点の場合は、以下の基準を尊重して順位が決定される：

- 獲得した各種目のチーム得点の合計が最も高いチームが上位となる（つまり、男子は最も高い5種目のチーム得点の合計、必要に応じて4種目、3種目、2種目、1種目の得点の合計、女子は最も高い3種目のチーム得点の合計、必要に応じて2種目、1種目の得点を合計することによる）
- さらに同点の場合は、どちらのチームも同じ順位とする。

第７条 7.2.2 個人総合決勝

個人総合決勝においてポイントが同点の場合は、以下の基準を尊重して順位が決定される：

１．獲得した各種目の最終スコアの合計が最も高い選手が上位となる（つまり、男子は最も高い5種目の最終スコア、必要に応じて4種目、3種目、2種目、1種目の得点を、女子は最も高い3種目の最終スコア、必要に応じて2種目、1種目の得点を合計することによる）

２．さらに同点の場合は、すべての種目のEスコアの合計が高い選手が上位となる

３．さらに同点の場合は、すべての種目のDスコアの合計が高い選手が上位となる

さらに同点の場合は、どちらも同じ順位とする。

第７条 7.2.3 種目別決勝

跳馬を除くすべての種目においてポイントが同点の場合は、以下の基準を尊重して順位が決定される：
１．Eスコアが最も高い選手が上位となる
２．Dスコアが最も高い選手が上位となる
さらに同点の場合は、どちらも同じ順位とする。

跳馬においてポイントが同点の場合は、以下の基準を尊重して順位が決定される：
１．最終スコアを平均する前の2回の跳躍のスコアのうち、最も高いスコアをもつ選手が上位となる
２．2回の跳躍のうち、どちらか一方のEスコアが高い選手が上位となる
３．2回の跳躍のうち、どちらか一方のDスコアが高い選手が上位となる
さらに同点の場合は、どちらも同じ順位とする。

【マークについて】

採点規則 2.3.2　競技の服装
ｆ）現行の FIG 広告規定に従い、自国のマークまたはエンブレムをレオタード／ユニタードにつけなければならない。

2022　FIG　広告規定および競技服装　（抜粋）

第５章　国のマーク
– すべての競技者は自国（国内では所属）を証明するマークを表示しなければならない。
　このマークは、以下のものでなければならない：
– 国旗または国名（組み合わせてはならない）
– フルネームもしくは国名を略したコードでもよい
　＊国内では所属のマークまたは所属名（略称も可）
– 全体の面積は最低 30 ㎠とする
– マークの表示の場所は任意である。
– 自国のマークはそれぞれの選手に少なくとも１つは表示されなければならない。
– チームの場合、メンバー全員のマークは同じでなければならない。

【採点規則 2022 年版　補足説明】＊FIG WAG Newsletter#3　情報

＜技の承認のガイドライン＞

段違い平行棒

➢ **3.407 後ろ振り～棒間でとび 1/2 ひねり～下移動低棒浮支持（Ejova）**

– 落下後、棒上から蹴って Ejova を実施し演技を再開させた場合
  - **難度なし**
  - **構成要求１**（高棒から低棒へ移動する空中局面を伴う技）、**構成要求３**（異なる握り）を**満たすことはできない。**

➢ **内容のない振り**

– 後方または前方車輪が倒立局面（垂直から 10°以内）に到達できなかった場合
  - 難度なし、内容のない振りと判断する
    （動画）https://youtu.be/TSz7vCJI5qw

– 後方または前方車輪が倒立局面（垂直から 10°以内）に到達せず、落下した場合
  - 難度なし、組み合わせ点は与えられない
    （動画）https://youtu.be/hOYqNqsMawc

➢ **棒下振り出し**

– もし、選手が終末技でひねりを伴わない棒下振り出しを実施した場合、この要素は難度表に記載されている技ではないため、難度なしとなる。
  - D 審判団：最大７つの難度点を加算
    「終末技なし」の減点（-0.50）を適用
    E 審判団：落下　-1.00

※平均台の終末技で、ひねりを伴わない片足踏み切り、前方伸身宙返り下り を実施した場合も同様

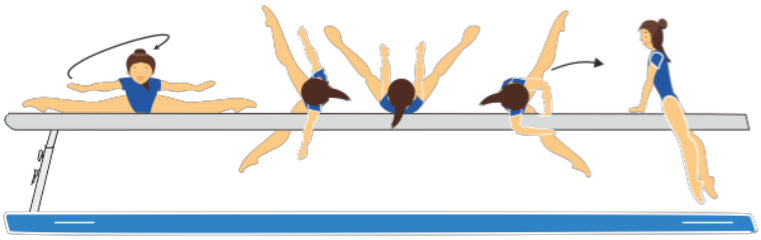
平均台

➢ **5.405　横向き、後転とび（正面支持）**

– 実施例１　（動画）https://youtu.be/FAbTmiCLKmA
  - D 審判団：難度を承認する
  - E 審判団：「落下を防ぐために平均台をつかむ」-0.50

– 実施例２　（動画）https://youtu.be/eWhcpTKXUrw
  - D 審判団：難度を承認する
  - E 審判団：「器械上での落下」-1.00

➢ **4.307 台をまたいだ座または左右開脚座から開脚伸身で横転**

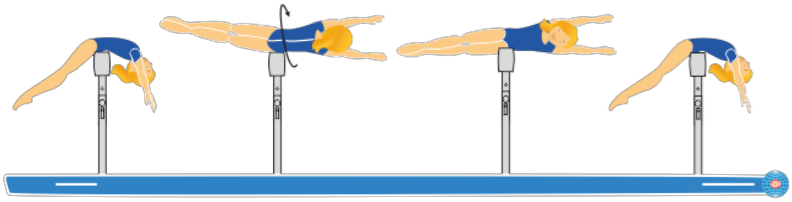


– C 難度を獲得するためには、少なくとも仰向けの状態の時には手で支持することなく回転しなければならない。
（動画）https://youtu.be/PoTddzeOfjo

– 仰向けの状態の時に台をつかんで実施した場合は、4.206　B 難度の技として承認する。
（動画）https://youtu.be/j_ij6wtTt_E

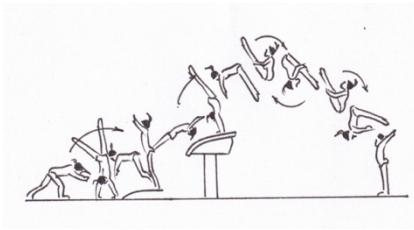
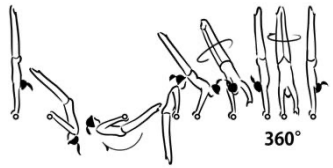
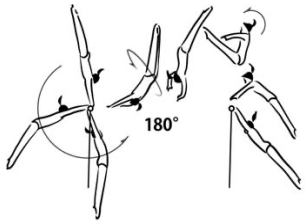
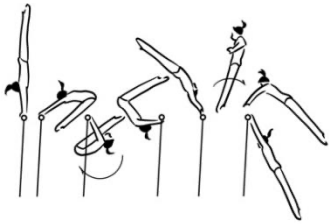
– 腰（背中）の位置で回転させなければ（腰／背中が台に接する）難度なしと判断する。この場合、「台に接する平均台に近い動き」として使用することができる。
（動画）https://youtu.be/NJT2kKyVo3c

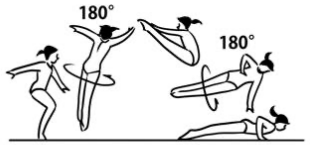
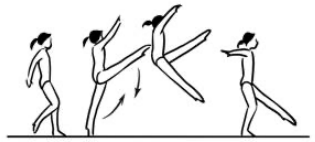
➢ **4.306 伸身姿勢で横転**



– C 難度を獲得するためには、手で支持することなく、腰/背中～腹～腰/背中、または腹～腰/背中～腹の回転でなければならず、そうでなければ難度なしと判断される。
＊仰向けから回転しても、伏臥から回転しても同一技

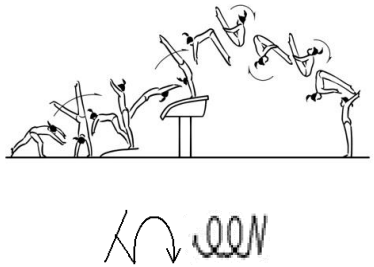
【2023 年新技】

VT	**Simone BILES** （USA）	**# 4.62** ロンダート後転とび～後方屈身２回宙返り https://youtu.be/gs83Dc-eq1E			**6.40**	
UB	**Georgia GODWIN** （AUS）	**#2.504** 前方浮支持回転倒立１回ひねり（ウェイラーキップ） https://youtu.be/dM5JOFqzwZk			**E**	
UB	**Haruka NAKAMURA** （JPN） **Alexa MORENO** （MEX）	**# 3.405** 前振り～1/2ひねり前方屈身宙返り～高棒懸垂（屈身デルチェフ） https://youtu.be/gu-Cc0qq0WQ			**D**	
UB	**Kaylia NEMOUR** （ALG）	**# 4.708** 後方閉脚浮腰回転～伸身背面とび越し（伸身姿勢で棒を越える）～高棒懸垂 https://youtu.be/HQIhIXo-OV4			**G**	

FX	**Alissa MOERZ** （AUT）	**# 1.306** 屈身とび１回ひねりから正面支持臥 https://youtu.be/ITzMB51To1A			**C**	
FX	**Ana BARBOSU** （ROU）	**# 1.111** 前へはさみとび（両脚は水平より上） https://youtu.be/Ic2wFo5yW5g			**A**	

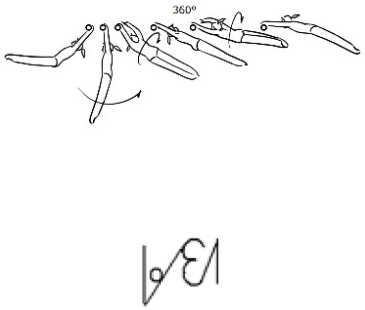
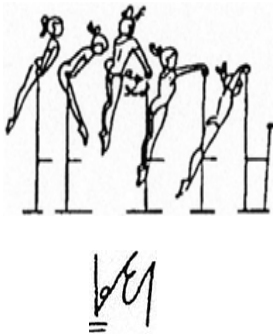
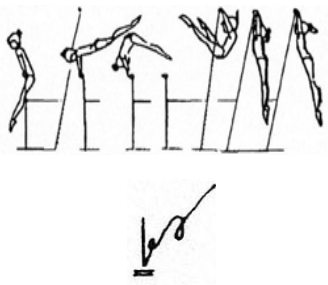
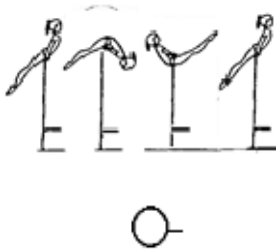
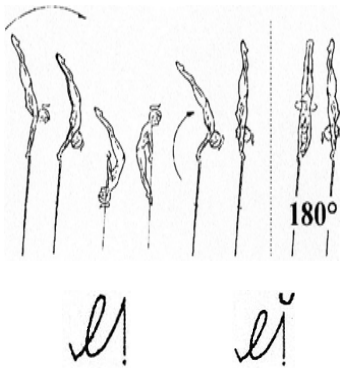
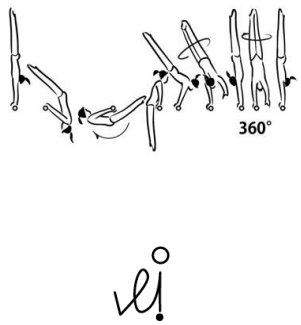
差し替えページ

グループ４―ロンダートから第１空中局面で後ろとび3/4(270度)ひねりを伴う/伴わない入り(ユルチェンコ)～第２空中局面でひねりを伴う/伴わない後方宙返り

4.60	**4.61**	**4.62** ロンダート後転とび～ 後方屈身２回宙返り ***(Biles)*** **6.40 P.** 	**4.63**	**4.64**	**4.65**

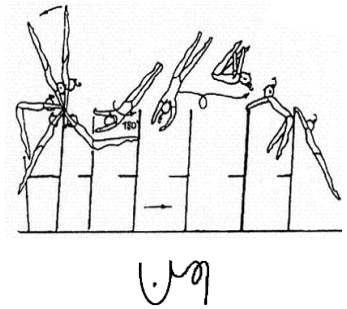
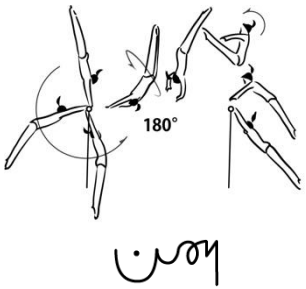
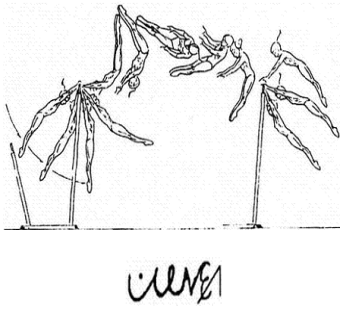
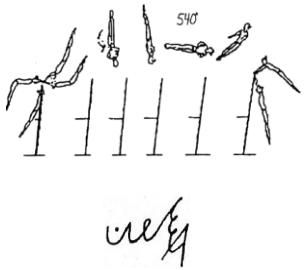
差し替えページ

2.000 ―後ろ振り上げ系の技と浮支持回転系の技

A	B	C	D	E	F/G
2.103	**2.203** 高棒懸垂～後ろ振り１回ひねり～ 高棒懸垂 	**2.303** 高棒支持～後ろ振り～手を放して １回ひねり～高棒懸垂 ***(Caslavska)*** 	**2.403** 低棒外向き支持～ 後ろ振り上げ前方宙返り～ 上移動高棒懸垂［ラドフラ宙返り］ ***(Radochla)*** 	**2.503** 高棒支持～ 後ろ振り上げ前方開脚宙返り～ 高棒懸垂［コマネチ宙返り］ ***(Comaneci)*** 	**2.603**
2.104 前方支持回転（棒に接しながら） 	**2.204**	**2.304**	**2.404** 前方浮支持回転倒立、または 1/2ひねり［ウェイラーキップ］ 	**2.504** 前方浮支持回転倒立１回ひねり ［ウェイラーキップ］ ***(Godwin)*** 	**2.604**

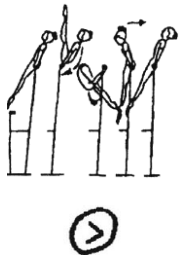
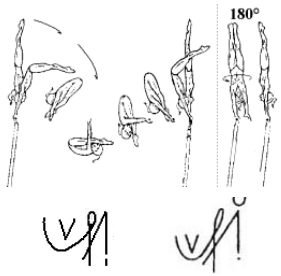
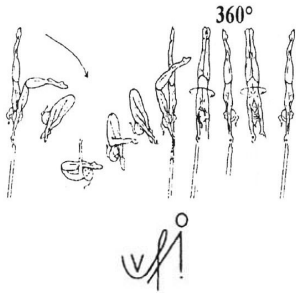
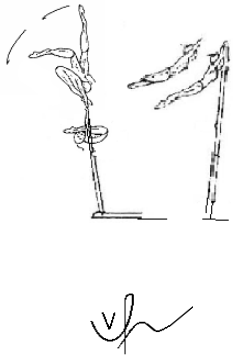
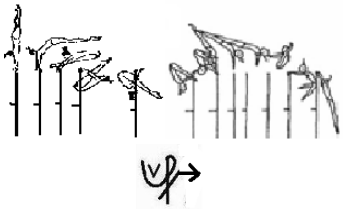
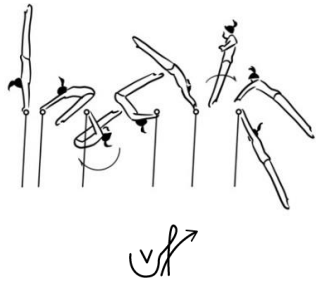
差し替えページ

3.000 — 車輪系の技

A	B	C	D	E	F/G
3.105	**3.205**	**3.305**	**3.405** 前振り～1/2ひねり前方(開脚、屈身)宙返り～高棒懸垂 ［デルチェフ宙返り］ ***(Moreno/Nakamura)***   前振り～後方屈身宙返り1/2ひねり～高棒懸垂 ［ギンガー宙返り］ 	**3.505** 前振り～後方伸身宙返り1/2ひねり～高棒懸垂 	**3.605** **3.705 - G -** 前振り～後方伸身宙返り１1/2ひねり～高棒懸垂 ***(Hristakieva)*** 

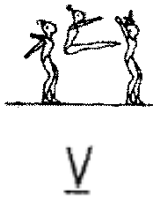
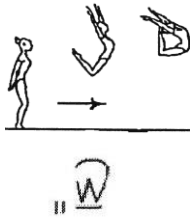
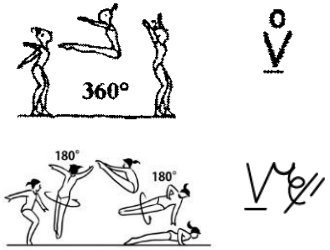
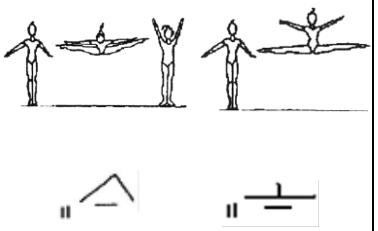
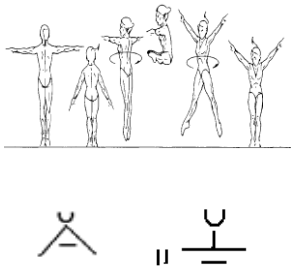
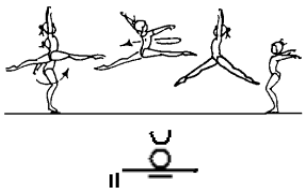
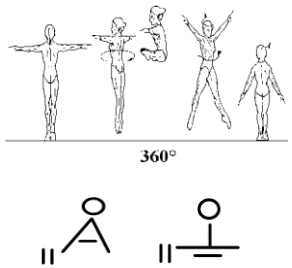
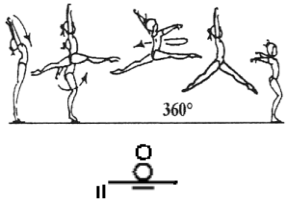
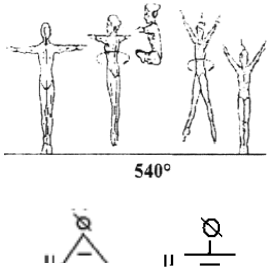
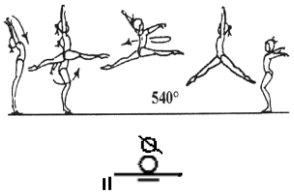
差し替えページ

4.000 — 浮腰回転系の技

A	B	C	D	E	F/G
4.107 背面支持～後方閉脚浮腰回転～背面支持 	**4.207**	**4.307**	**4.407** 後方閉脚浮腰回転倒立、または1/2ひねり 	**4.507** 後方閉脚浮腰回転倒立１回ひねり 	**4.607**
4.108	**4.208** 後方閉脚浮腰回転前振り出し～切り返しを伴った上移動高棒懸垂 	**4.308** 後方閉脚浮腰回転前とび出し～上移動高棒懸垂 ***(Zgoba)*** 	**4.408**	**4.508** 後方閉脚浮腰回転倒立～背面とび出し～上移動高棒懸垂、または1/2ひねり ***(Komova)*** 後方閉脚浮腰回転～(空中局面の前に腰を開いて)開脚背面とび越し～高棒懸垂 ***(Galante)*** 	**4.608 - F -** 後方閉脚浮腰回転～屈身背面とび越し～高棒懸垂 **4.708 - G -** 後方閉脚浮腰回転～伸身背面とび越し(伸身姿勢で棒を越える)～高棒懸垂 ***(Nemour)*** 

差し替えページ

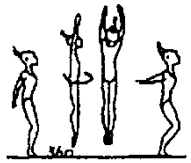
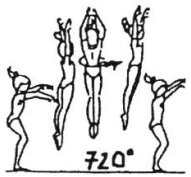
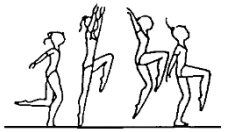
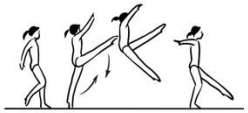
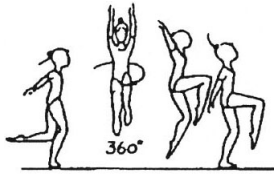
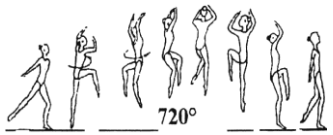
1.000 — ダンス系リープ・ジャンプ・ホップ

A	B	C	D	E	F/G
1.106 両足踏み切り、屈身とび (腰角度は９０度より深く) 	**1.206** 両足踏み切り、上体はアーチ姿勢で 頭部後屈、両足は頭の高さ/輪を閉じる [羊とび] 	**1.306 (*)** 両足踏み切り、屈身とび１回ひねり、 または正面支持臥 (腰角度は９０度より深く) ***(Moerz)*** 	**1.406**	**1.506**	**1.606**
1.107 (*) 両足踏み切り、左右開脚屈身とび (両脚は水平より上)、または左右 開脚とび(開脚は１８０度) 	**1.207 (*)** 両足踏み切り、左右開脚屈身または 左右開脚とび1/2ひねり  両足踏み切り、前後開脚とび 1/2ひねり 	**1.307 (*)** 両足踏み切り、左右開脚屈身または 左右開脚とび１回ひねり ***(Popa)***  両足踏み切り、前後開脚とび １回ひねり 	**1.407 (*)** 両足踏み切り、左右開脚屈身 または左右開脚とび１1/2ひねり  両足踏み切り、前後開脚とび １1/2ひねり 	**1.507**	**1.607**

(*) 同じボックス内の技は、実施された順に
１回のみ承認される

差し替えページ

1.000 — ダンス系リープ・ジャンプ・ホップ

A	B	C	D	E	F/G
1.110 (片足、両足)踏み切り、伸身とび １回ひねり、浮脚は自由  	**1.210**	**1.310** (片足、両足)踏み切り、伸身とび ２回ひねり  	**1.410**	**1.510**	**1.610**
1.111 (*) ねことび(膝は交互に水平より上)  前へはさみとび (両脚は水平より上)  	**1.211** ねことび１回ひねり  	**1.311** ねことび２回ひねり  	**1.411**	**1.511** (*) 同じボックス内の技は、実施された順に １回のみ承認される	**1.611**

2022 FIG Vault Table

GROUP I			GROUP II			GROUP III			GROUP IV			GROUP V		
1.00		1.60												
1.01		2.00												
1.02		2.60												
1.03		3.20												
1.04		3.60												
1.05		4.00												
1.10		2.00	2.10		3.60	3.10		3.20	4.10		3.00	5.10		3.80
1.11		2.40	2.11		3.80	3.11		3.40	4.11		3.20	5.11		4.00
1.12		2.80				3.12		3.80	4.12		3.60			
			2.12		4.20	3.13		4.20	4.13		4.00	5.12		4.40
			2.13		4.60	3.14		4.60	4.14		4.40	5.13		4.80
1.20		1.60	2.20		3.80	3.20		3.40	4.20		3.20	5.20		4.00
1.21		2.40	2.21		4.00							5.21		4.20
1.22		2.60												
1.23		3.20	2.22		4.40							5.22		4.60
1.24		3.60												
1.30		3.20	2.30		4.40	3.30		3.80	4.30		3.60	5.30		4.60
1.31		3.60	2.31		4.60	3.31		4.00	4.31		3.80	5.31		4.80
			2.32		5.00	3.32		4.40	4.32		4.20	5.32		5.20
1.40		2.00	2.33		5.40	3.33		4.80	4.33		4.60	5.33		5.60
			2.34		5.80	3.34		5.20	4.34		5.00	5.34		6.00
						3.35		5.60	4.35		5.40			
1.50		2.20	2.40		4.80				4.40		3.60			
1.51		2.60	2.41		5.20				4.41		4.00			
1.52		3.00							4.42		4.20			
1.53		3.40	2.50		6.00				4.50		3.80			
1.60		2.40							4.51		4.20			
1.61		2.80							4.52		4.60			
1.62		3.20							4.53		5.00			
									4.62		6.40			

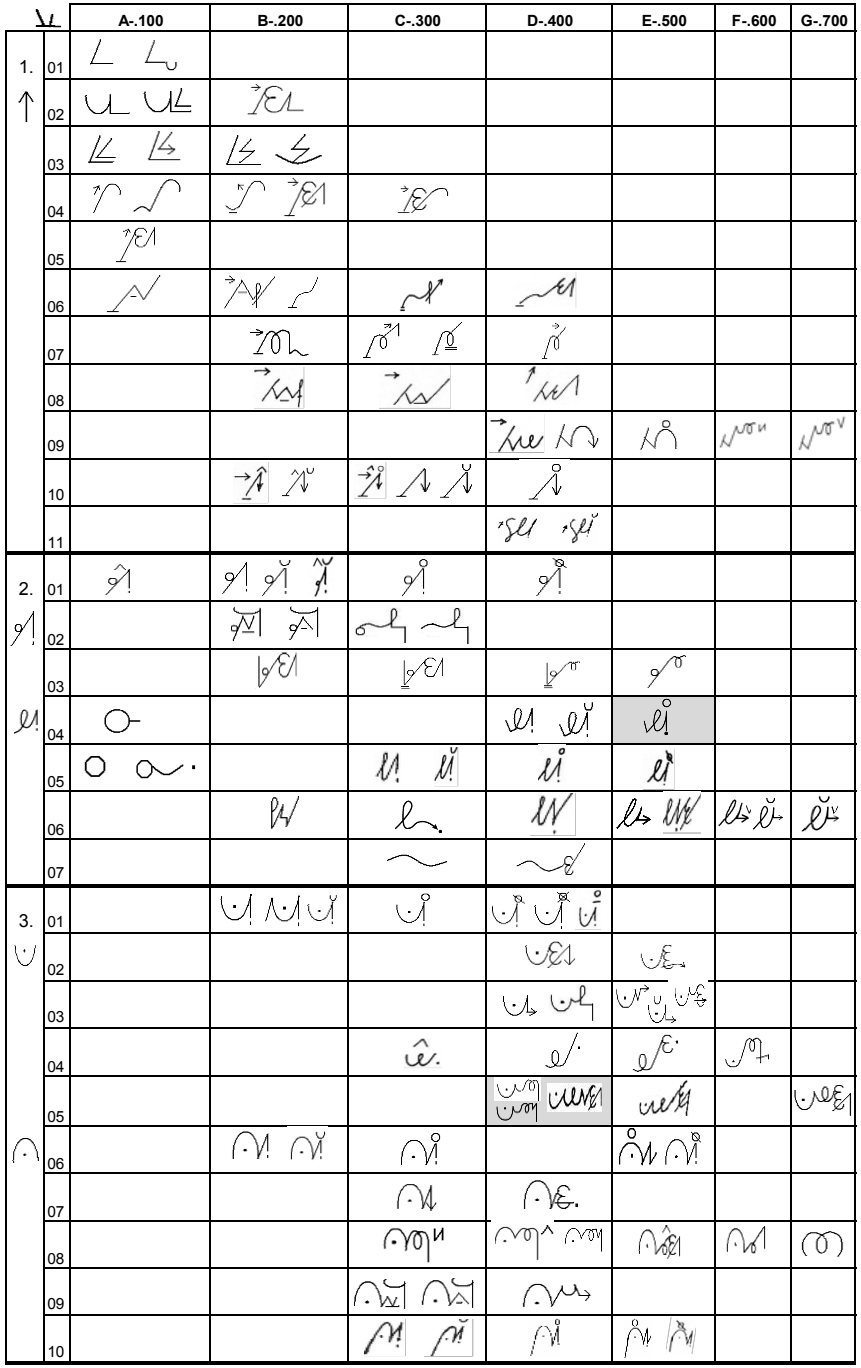
Qualification: 1 vault must be performed. This vault score counts for Team & AA total

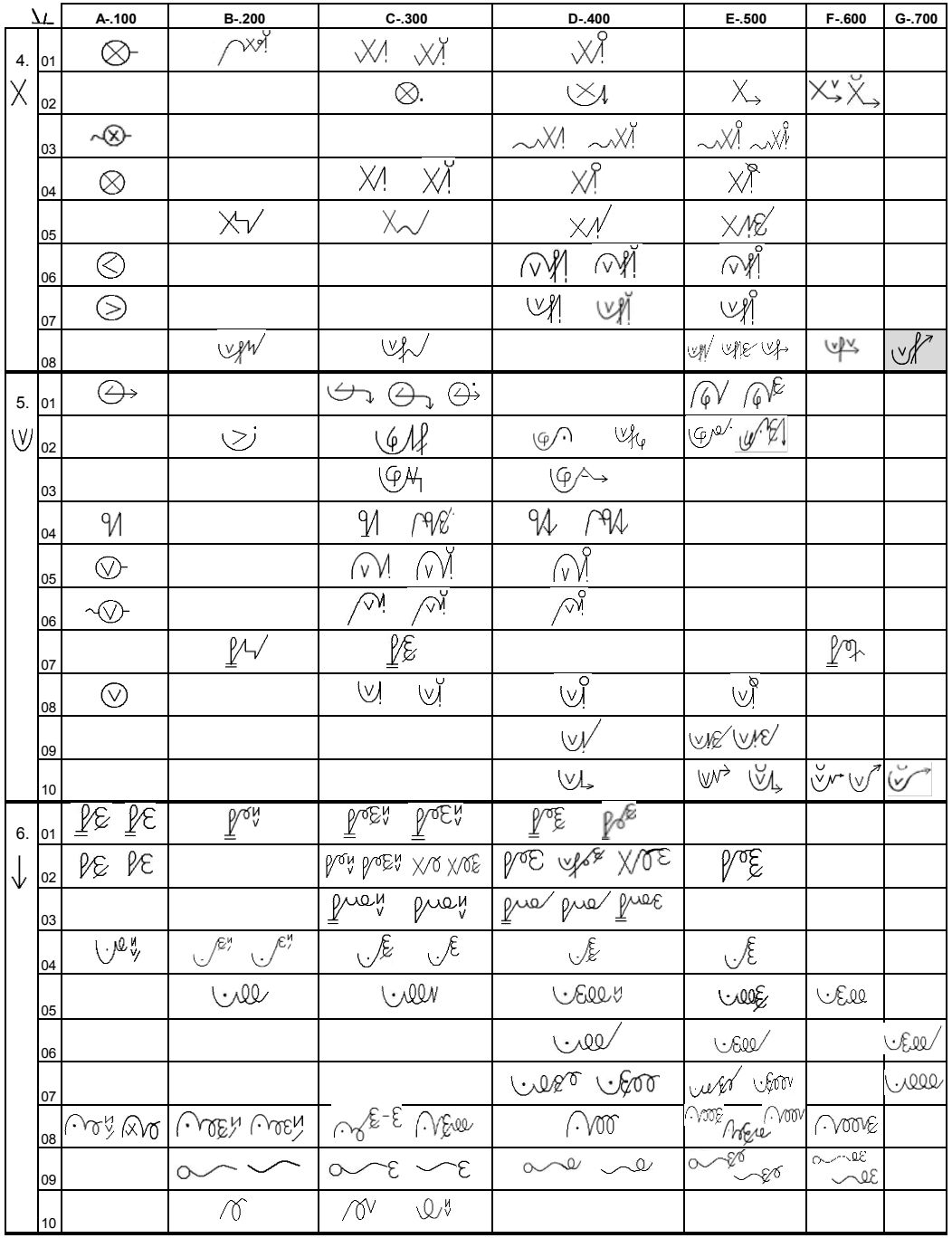
If the gymnast has been registered in the start list to qualify for Apparatus Finals a 2nd vault must be performed

Score of both vaults averaged = Final Score

Team & AA Finals: 1 vault must be performed

Apparatus Final: The 2 vaults must be from different groups and have different 2nd flight phases





WAG COP 2022-2024

(October 2023)

		A-.100	B-.200	C-.300	D-.400	E-.500
1.	01					
—	02					
	03					
	04					
	05					
	06					
	07					
	08					
	09					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
2.	01					④
○	02					
	03					
	04					
	05					
	06					
	07					③
	08					

		A-.100	B-.200	C-.300	D-.400	E-.500	F-.600	G-.700	H-.800	I-.900	J-1.00
3.	01										
=	02										
	03										
	04										
	05										
	06										
	07										
4.	01										
	02										
	0.3										
	04										
	05										
5.	01										
	02										
	03										
	04										

第 52 回世界体操競技選手権大会審判員報告

審判委員会体操競技女子審判本部
本部長　大森　智子
本部員　黒須　真希

開催地：ベルギー　アントワープ
大会期日：2023 年 9 月 26 日（火）～10 月 10 日（火）
スケジュール：9 月 26 日（火）出国
9 月 27 日（水）現地到着、男子ポディウム
9 月 28 日（木）男女ポディウム
9 月 29 日（金）女子ポディウム、男子審判会議
9 月 30 日（土）男子競技　男子予選１日目、女子審判会議
10 月　1 日（日）男女競技　男子予選２日目、女子予選１日目
10 月　2 日（月）女子競技　予選２日目
10 月　3 日（火）男子競技　団体決勝
10 月　4 日（水）女子競技　団体決勝
10 月　5 日（木）男子競技　個人総合決勝、女子ラウンドテーブル
10 月　6 日（金）女子競技　個人総合決勝
10 月　7 日（土）男女競技　種目別決勝１日目
10 月　8 日（日）男女競技　種目別決勝２日目
10 月　9 日（月）出国
10 月 10 日（火）日本　到着

選手団：

チームマネージャー	田中　光	(日本体操協会)
コーチ	原田　睦巳	(順天堂大学)
コーチ	豊島　リサ	(戸田市 SC)
コーチ	金谷　麻理子	(筑波大学)
コーチ	笹田　夏実	(日本体育大学)
コーチ	畠田　瞳	(セントラルスポーツ)
トレーナー	大野　達哉	(船橋整形外科)
サポートスタッフ	黒阪　翔	(日本スポーツ振興センター)
選手	宮田　笙子	(順天堂大学)
選手	岸　里奈	(戸田市 SC/クラーク)
選手	深沢　こころ	(筑波大学)
選手	芦川　うらら	(日本体育大学)
選手	畠田　千愛	(セントラルスポーツ)
補欠	坂口　彩夏	(日本体育大学)

参加国：

選手：60 カ国（チーム参加 24 カ国、個人参加 36 カ国）エントリー202 名　演技者 190 名

チーム出場

ARG・AUS・AUT・BEL・BRA・CAN・CHN・CZE・ESP・FIN・FRA・GBR・GER・HUN・ITA・JPN・KOR・MEX・NED・ROU・RSA・SWE・TPE・USA

個人出場

個人総合出場 31 カ国

ALG・BAR・CHI・COL・DEN・ECU・EGY・GRE・HAI・INA・IRL・ISL・ISR・KAZ・LAT・LUX・NOR・NZL・PAN・PER・PHI・POL・POR・SGP・SLO・SRI・SUI・SVK・TUR・UKR・UZB

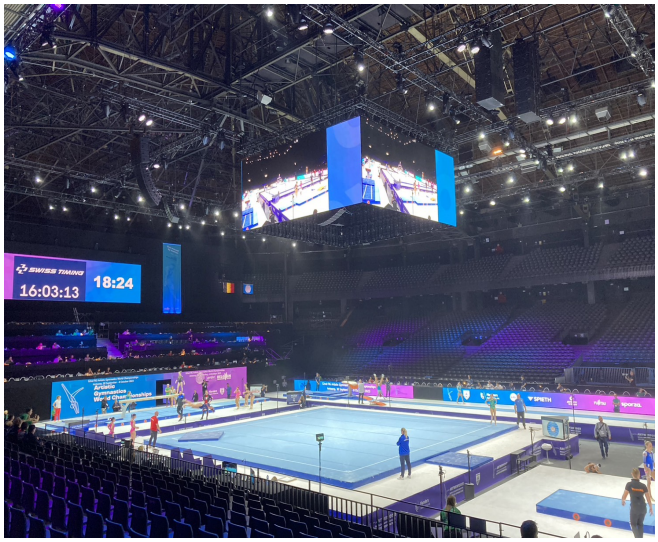
種目別出場 17 カ国

AZE・CRO・EGY・GRE・HKG・INA・KAZ・LAT・MAS・NOR・PAN・POL・POR・TUR・UKR・UZB・VIE

審判：53 カ国（74 名：D 審判８名・各国帯同審判 65 名）

ALG・ARG・AUS・AUT・AZE・BEL・BRA・BUL・CAN・CHI・CHN・COL・CRO・CYP・CZE・ECU・EGY・ESP・FIN・FRA・GBR・GER・GRE・HUN・IRL・ISL・ISR・ITA・JPN・KOR・LAT・LTU・LUX・MEX・NED・NOR・NZL・PAN・PER・POL・POR・PUR・ROU・RSA・SGP・SUI・SVK・SWE・TPE・TUR・UKR・USA・UZB

会場：



審判編成：

今回の大会では FIG 技術委員は以下のように配置されていた。

審判長： Donatella SACCHI

上級審判員： Nehad ZAYED, Helena Beatriz LARIO

Supervisor：跳　馬　　Elena DAVYDOVA

：段違い平行棒　Liubov ANDRIANOVA

：平均台　　Kym DOWDELL

：ゆ　か　　Johanna GRATT

D 審判団は事前に FIG 技術委員より指名され決定されており、全競技を通して同じ種目を担当。各種目の担当は以下の通り。

D 審判	跳馬	D1　DOBREVA Tzvetana（BUL） D2　WOOLF Michelle Jayne（NZL）
	段違い平行棒	D1　RATYNSKA-BURY Maria Anna（POL） D2　Mc MURDO Michelle Jane（AUS）
	平均台	D1　SAN MARTIN LOPEZ Maria Jose（ESP） D2　IOANNOU Maria　（CYP）
	ゆか	D1　ALVARADO CLEMENTE Lisseth Amelia　（ECU） D2　LJUBANCIC Julija（CRO）

審判抽選：

今大会では、これまでになく参加しているすべての審判に E 審判のチャンスがあるように可能な限り公平性を保った抽選方法となった。そのため、すべての競技の抽選は、競技ごと（予選の抽選のみ前日の審判会議で、その他の競技は競技当日の直前の打ち合わせにて）に行われた。その結果、これまでであれば帯同審判を 2 名選出している国では審判に入れない場合もあったが、今回に至っては、予選から決勝まですべての競技に選手がエントリーしたアメリカ以外 1 名で参加している国も 2 名で参加している国も同様にすべての審判が少なくとも 1 回は E 審判に入ることができた。

抽選結果：予選　段違い平行棒 E5　大森

個人総合決勝　ゆか E7　黒須

種目別決勝　　ゆか E4　黒須

審判会議：

FIG 技術委員長、メンバーによって採点規則 2022 年版のルールの解説が行われたが、パリオリンピックの開催も数ヶ月後に迫り、ルールの改定目前の時期であるため、ルールの変更、追加等の説明はなく、これまで説明を受けてきたルールの再確認であった。以前の世界選手権の審判会議では各種目とも難度の承認や減点についてなど時間をかけて説明があったが、このサイクルからは全体の審判会議では E 審判に関わる減点についての確認のみになり、D スコアに関わる難度の承認については説明を受けることができなかった。そのため、D スコアに関わる技の承認や組み合わせなどの疑問点については、会議の前後で技術委員に直接問い合わせをして内容を確認した。

成績概況：

① 全体

予選におけるチーム得点、各種目の D スコア・E スコアの結果は、表-1 のとおり。

表-1 団体予選の順位と各種目順位

			VT						UB						BB						FX					
予選順位	国	チーム得点	D 平均	D 順位	E 平均	E 順位	チーム得点	種目順位	D 平均	D 順位	E 平均	E 順位	チーム得点	種目順位	D 平均	D 順位	E 平均	E 順位	チーム得点	種目順位	D 平均	D 順位	E 平均	E 順位	チーム得点	種目順位
1	USA	171.395	5.67	1	9.166	2	43.998	1	6.10	2	8.355	1	43.366	2	5.87	2	8.121	1	41.965	2	6.20	1	7.822	9	42.066	1
2	GBR	166.130	5.20	2	9.133	3	42.900	2	5.80	5	7.977	4	41.332	5	5.73	4	7.833	5	40.699	3	5.80	2	7.933	6	41.199	2
3	CHN	165.663	4.33	14	8.833	17	39.499	14	6.27	1	8.244	2	43.533	1	6.33	1	7.888	4	42.666	1	5.43	6	7.888	8	39.965	5
4	BRA	164.297	5.20	2	8.999	7	42.599	3	5.73	7	7.677	11	40.232	7	5.50	9	8.000	2	40.400	4	5.70	3	7.988	3	41.066	3
5	ITA	162.230	4.87	5	8.999	7	41.599	7	5.97	3	7.399	17	40.099	8	5.43	10	7.988	3	40.266	5	5.43	6	8.055	1	40.266	4
6	NED	161.197	4.60	10	9.000	5	40.800	9	5.93	4	7.944	4	41.632	3	5.27	14	7.755	6	39.066	10	5.20	12	8.033	2	39.699	6
7	FRA	160.930	4.87	5	9.177	1	42.132	4	5.80	5	7.833	7	40.899	6	5.63	5	7.422	10	39.166	9	5.33	9	7.611	14	38.733	9
8	JPN	158.497	4.87	5	9.000	5	41.600	6	5.27	15	7.555	13	38.465	15	5.57	7	7.722	8	39.866	6	5.47	5	7.388	22	38.566	11
9	AUS	157.896	4.53	12	8.533	24	38.899	23	5.73	7	8.066	3	41.399	4	5.60	6	7.511	9	39.333	8	5.27	11	7.621	13	38.265	13
10	ROU	157.795	4.47	13	8.899	13	40.099	12	5.63	10	7.410	16	39.132	12	5.77	3	7.221	15	38.965	11	5.53	4	7.666	12	39.599	7
11	KOR	157.297	4.87	5	8.977	10	41.533	8	5.67	9	7.633	12	39.899	10	5.53	8	7.010	18	37.632	14	5.40	8	7.444	18	38.233	14
12	CAN	157.229	4.60	10	8.955	11	40.665	11	5.60	11	7.755	9	40.066	9	5.30	13	7.299	13	37.699	13	5.07	14	7.899	7	38.799	8
13	GER	157.128	4.20	19	9.010	4	39.632	13	5.20	16	7.921	6	39.365	11	5.43	10	7.732	7	39.498	7	4.93	15	7.977	4	38.633	10
14	MEX	154.628	5.07	4	8.933	12	41.999	5	5.53	12	7.366	19	38.698	13	4.93	19	6.999	19	35.699	20	5.33	9	7.444	18	38.232	15
15	HUN	153.563	4.80	9	8.777	21	40.733	10	5.37	13	7.421	15	38.365	16	5.27	14	7.310	12	37.732	12	4.87	17	7.411	21	36.733	20
16	ESP	152.895	4.33	14	8.833	17	39.499	16	5.17	18	7.766	8	38.499	14	5.07	17	7.066	17	36.398	18	5.13	13	7.699	11	38.499	12
17	BEL	151.662	4.20	19	8.844	16	39.132	20	5.37	13	7.355	20	38.165	17	5.40	12	6.777	24	36.532	17	4.83	18	7.777	10	37.833	16
18	SWE	150.263	4.20	19	8.999	7	39.499	14	4.80	19	7.710	10	37.532	19	4.97	18	6.944	21	35.733	19	4.57	24	7.966	5	37.499	18
19	RSA	147.997	4.20	19	8.899	13	39.299	18	5.20	16	7.322	21	37.566	18	4.53	23	6.811	23	34.033	24	4.83	18	7.533	16	37.099	19
20	AUT	147.830	4.13	23	8.855	15	38.966	22	4.80	19	7.377	18	36.533	20	4.40	24	7.166	16	34.699	23	4.93	15	7.610	15	37.632	17
21	CZE	147.063	4.33	14	8.811	20	39.433	17	4.53	22	6.944	22	34.432	23	4.87	20	7.322	11	36.566	16	4.70	22	7.510	17	36.632	21
22	FIN	145.296	4.27	18	8.833	17	39.299	18	4.70	21	6.811	24	34.533	22	4.80	22	6.833	22	34.899	22	4.77	20	7.421	20	36.565	22
23	TPE	145.230	4.00	24	8.755	22	38.265	24	4.50	23	6.888	23	34.166	24	5.23	16	7.266	14	37.500	15	4.73	21	7.033	23	35.299	23
24	ARG	145.197	4.33	14	8.666	23	39.000	21	4.47	24	7.477	14	35.832	21	4.83	21	6.977	20	35.433	21	4.63	23	7.010	24	34.932	24

今年の世界選手権は、来年開催予定のパリオリンピックの出場権をかけた大会であり、昨年の世界選手権で団体出場権を獲得した 3 カ国を除くすべての国がその出場権の獲得を目指し、どの国も昨年から競技力を上げてきていることが伺えた。予選競技前の練習からみてもどの国の力も拮抗しており、予選は熾烈な争いが予想された。結果から見てもわかるように予選第 8 位に入った日本からパリオリンピックの団体出場権獲得を逃した GER までの得点差はわずか 1.3 余りであり、その得点差の中に 6 カ国がひしめき合うという予想通りの僅差の戦いとなった。オリンピックの団体出場権獲得を逃した GER とオリンピックの団体出場権を獲得した KOR との得点差はわずか 0.169 であり、GER はそのわずかな差でオリンピック出場を逃してしまう結果となった。日本は、その中でも跳馬と平均台で得点を伸ばし、見事予選第 8 位となり、団体総合決勝に進出するとともに、来年開催されるパリオリンピックの団体出場権を獲得することができた。今回、日本は跳馬と平均台で予選上位の得点を獲得できたことでこの結果をもたらすことができたが、GER がわずかな差でオリンピック団体出場を逃してしまったことや前回大会である東京オリンピックに団体出場をしている ESP や BEL が同じく出場権を逃してしまったことを考えると、今回の結果に安心していることはできない状況だといえる。特に段違い平行棒、ゆかには大きな課題があり、今後国内全体でその課題克服にむけて取り組んでいかなければならない。

表-2　団体決勝　各国の種目スコア

			VT						UB						BB						FX					
予選順位	国	チーム得点	D平均	D順位	E平均	E順位	チーム得点	種目順位	D平均	D順位	E平均	E順位	チーム得点	種目順位	D平均	D順位	E平均	E順位	チーム得点	種目順位	D平均	D順位	E平均	E順位	チーム得点	種目順位
1	USA	167.729	5.20	1	9.122	1	42.966	1	6.07	2	8.355	1	43.265	1	5.60	3	7.600	7	39.600	6	5.87	1	8.133	2	41.898	2
2	BRA	165.530	5.20	1	9.022	3	42.666	2	5.80	6	7.966	3	41.299	5	5.57	4	7.633	6	39.399	8	5.73	2	8.322	1	42.166	1
3	FRA	164.064	4.87	4	9.122	1	41.966	3	5.87	5	7.933	4	41.399	3	5.53	5	8.155	1	41.066	2	5.27	6	7.944	5	39.633	5
4	CHN	163.162	4.33	8	8.700	6	39.099	8	6.27	1	8.077	2	43.032	2	6.27	1	7.644	5	41.732	1	5.23	7	7.866	6	39.299	6
5	ITA	162.997	4.87	4	9.011	4	41.632	4	6.03	3	7.511	6	40.633	6	5.53	5	8.022	3	40.666	4	5.43	4	7.955	4	40.066	4
6	GBR	161.864	5.20	1	8.622	7	41.166	5	5.73	7	7.478	8	39.633	7	5.73	2	7.489	8	39.666	5	5.73	2	8.066	3	41.399	3
7	NED	159.563	4.60	7	8.789	5	40.166	6	5.93	4	7.844	5	41.332	4	5.30	8	7.877	4	39.532	7	5.10	8	7.744	7	38.533	7
8	JPN	157.496	4.87	4	8.400	8	39.500	7	5.63	8	7.500	7	39.399	8	5.50	7	8.088	2	40.765	3	5.40	5	7.211	8	37.832	8

＊各種目３演技中大過失１回は　　色、２回は　　色で示した。

団体総合決勝の結果は表-2 のとおり。日本は、跳馬で大過失が 1 回、ゆかで大過失が 2 回あり、総合第 8 位という結果に終わった。注目すべきは見事銅メダルを獲得した FRA である。団体総合決勝では各国 3 人の演技の得点がすべて有効点となるため、1 つの過失が大きく順位を分けることになるルールである。今回、FRA を除くすべての国が 1 つ以上の大過失のある演技となってしまったが、唯一 FRA だけが 4 種目 12 演技すべて大過失なく演技することができ、その結果銅メダルの獲得を果たした。昨年のリバプール世界選手権の団体総合決勝の結果を見ても同じようにすべての種目で大過失なく演技をした CAN が第 3 位に入り、そして見事昨年の世界選手権でパリオリンピックの団体出場権を獲得することができたのである。さらに過去の結果を見ても東京オリンピックの団体出場権がかかった 2019 年シュトゥットガルト世界選手権でも唯一大過失を 12 演技中 1 回のみに抑えた ITA が第 3 位に入り、銅メダルを獲得した。このように団体総合決勝ではいかに大過失を抑え、完成させた演技をこの大舞台で実施できるかどうかが鍵を握ると言える。

② 各種目

跳馬：予選における跳馬のチーム得点・チーム D スコア・チーム E スコアの結果は、表-3 のとおり。

表-3　予選上位 13 カ国の跳馬のチーム得点と D・E スコアの平均

予選順位	国	Dスコア					Eスコア					ND	種目スコア			チーム得点	種目順位
		選手A	選手B	選手C	D平均	D順位	選手A	選手B	選手C	E平均	E順位		選手A	選手B	選手C		
1	USA	6.40	5.60	5.00	5.666	1	9.366	8.866	9.266	9.166	2	-0.5	15.266	14.466	14.266	43.998	1
2	GBR	5.60	5.00	5.00	5.200	2	9.100	9.300	9.000	9.133	3	-0.1	14.600	14.300	14.000	42.900	2
3	CHN	4.40	4.40	4.20	4.333	14	8.866	8.733	8.900	8.833	17		13.266	13.133	13.100	39.499	14
4	BRA	5.60	5.00	5.00	5.200	2	9.300	8.866	8.833	8.999	7		14.900	13.866	13.833	42.599	3
5	ITA	5.00	5.00	4.60	4.866	5	9.000	8.833	9.166	8.999	7		14.000	13.833	13.766	41.599	7
6	NED	5.00	4.60	4.20	4.600	10	8.900	9.000	9.100	9.000	5		13.900	13.600	13.300	40.800	9
7	FRA	5.40	5.00	4.20	4.866	5	9.000	9.366	9.166	9.177	1		14.400	14.366	13.366	42.132	4
8	JPN	5.00	5.00	4.60	4.866	5	9.100	9.000	8.900	9.000	5		14.100	14.000	13.500	41.600	6
9	AUS	4.80	4.20	4.60	4.533	12	8.833	8.900	7.866	8.533	24		13.633	13.100	12.166	38.899	23
10	ROU	4.60	4.60	4.20	4.466	13	9.033	8.900	8.766	8.899	13		13.633	13.500	12.966	40.099	12
11	KOR	5.40	4.60	4.60	4.866	5	9.333	8.900	8.700	8.977	10		14.733	13.500	13.300	41.533	8
12	CAN	5.00	4.60	4.20	4.600	10	8.966	8.866	9.033	8.955	11		13.966	13.466	13.233	40.665	11
13	GER	4.20	4.20	4.20	4.200	19	9.233	8.933	8.866	9.010	4		13.433	13.133	13.066	39.632	13

＜成績概況＞

予選において日本はDスコア5位、Eスコア5位、跳馬のチーム得点は第6位という結果であった。日本はこれまで5.00以上の跳躍技の実施を目標に取り組んできたことが成果に表れてきており、今大会のDスコアの順位も上位に位置しており、この跳馬の結果が団体総合決勝への進出、パリオリンピック団体出場権獲得の鍵となった。比較してオリンピック団体出場権を逃した予選13位のGERは、チームのベスト3のDスコアの平均が4.20（チーム得点となる3名ともDスコア4.20)、跳馬のDスコア順位は19位であり、この結果が総合順位に大きく影響したといえる。このことからも跳馬において高い難度の跳躍技の習得は必須であり、今後も引き続き強化していくことが必要といえる。

また、日本選手の跳躍は、予選競技ではチームのベスト3のEスコアの平均が9.000でEスコアだけの順位では5位に位置している。Eスコアにおいても日本は予選競技で高い評価を得ることができた。

＜課題＞

予選競技の結果から見ても日本は高い評価を得たと言えるが、実際の跳躍を会場で見ると、特にEスコアの上位に位置している3チーム（FRA、USA、GBR）の跳躍から比べると、跳躍の高さ、距離、ダイナミックさは物足りなさを感じる。中でも跳躍台からの突き上がりの強さ、速さ、そして物理的な高さが日本選手の跳躍はまだ十分ではなく、上位チームの跳躍と並べると減点が発生する実施となり、どうしても高得点には繋がらない。常にどの審判からも高い評価を得るためには、物理的なスピードと高さを上げること、そして減点が多くなる第2空中局面、着地の姿勢の正確さが求められる。採点の傾向として、第2空中局面で伸身宙返りの姿勢が保たれずに屈身姿勢が早く見えてしまう実施や着地姿勢が低くなる（頭が下がる）実施になると減点が大きくなり、高いEスコアを望むことができない。第2空中局面で余裕のある宙返りを実施できる跳躍、着地の先取りの出来た余裕のある着地ができる跳躍を習得するために、走力の向上や助走からの動力をいかした力強い着手からの突き上げなどダイナミックな跳躍につながるための基礎力の向上を目指しトレーニングに励んでもらいたい。

段違い平行棒：

予選における段違い平行棒のチーム得点・チーム D スコア・チーム E スコアの結果は、表-4 のとおり。

表-4　予選の段違い平行棒のチーム得点と D・E スコアの平均

予選順位	国	Dスコア					Eスコア					ND	種目スコア			チーム得点	種目順位
		選手A	選手B	選手C	D平均	D順位	選手A	選手B	選手C	E平均	E順位		選手A	選手B	選手C		
1	USA	6.40	6.00	5.90	**6.100**	2	8.433	8.400	8.233	**8.355**	1		14.833	14.400	14.133	**43.366**	2
2	GBR	6.00	5.60	5.80	**5.800**	5	8.033	8.166	7.733	**7.977**	4		14.033	13.766	13.533	**41.332**	5
3	CHN	6.50	6.50	5.80	**6.266**	1	8.400	8.033	8.300	**8.244**	2		14.900	14.533	14.100	**43.533**	1
4	BRA	6.20	5.60	5.40	**5.733**	7	7.666	8.000	7.366	**7.677**	11		13.866	13.600	12.766	**40.232**	7
5	ITA	5.90	6.10	5.90	**5.966**	3	7.766	7.300	7.133	**7.399**	17		13.666	13.400	13.033	**40.099**	8
6	NED	6.30	6.00	5.50	**5.933**	4	7.900	8.166	7.766	**7.944**	5		14.200	14.166	13.266	**41.632**	3
7	FRA	6.00	6.10	5.30	**5.800**	5	8.133	7.966	7.400	**7.833**	7		14.133	14.066	12.700	**40.899**	6
8	JPN	5.50	5.30	5.00	**5.266**	15	7.866	7.633	7.166	**7.555**	13		13.366	12.933	12.166	**38.465**	15
9	AUS	5.70	5.80	5.70	**5.733**	7	8.200	8.033	7.966	**8.066**	3		13.900	13.833	13.666	**41.399**	4
10	ROU	6.20	5.40	5.30	**5.633**	10	7.166	7.633	7.433	**7.410**	16		13.366	13.033	12.733	**39.132**	12
11	KOR	6.00	5.50	5.50	**5.666**	9	7.633	7.633	7.633	**7.633**	12		13.633	13.133	13.133	**39.899**	10
12	CAN	6.00	5.20	5.60	**5.600**	11	8.133	7.933	7.200	**7.755**	9		14.133	13.133	12.800	**40.066**	9
13	GER	5.60	4.80	5.20	**5.200**	16	7.866	8.166	7.733	**7.921**	6		13.466	12.966	12.933	**39.365**	11
14	MEX	5.50	5.80	5.30	**5.533**	12	7.866	7.066	7.166	**7.366**	19		13.366	12.866	12.466	**38.698**	13
15	HUN	6.20	5.20	4.70	**5.366**	13	7.666	7.533	7.066	**7.421**	15		13.866	12.733	11.766	**38.365**	16
16	ESP	5.50	5.00	5.00	**5.166**	18	7.733	7.900	7.666	**7.766**	8	-0.3	12.933	12.900	12.666	**38.499**	14
17	BEL	5.70	5.00	5.40	**5.366**	13	7.333	7.866	6.866	**7.355**	20		13.033	12.866	12.266	**38.165**	17
18	SWE	4.70	4.90	4.80	**4.800**	19	8.166	7.733	7.233	**7.710**	10		12.866	12.633	12.033	**37.532**	19
19	RSA	5.60	5.10	4.90	**5.200**	16	7.300	7.400	7.266	**7.322**	21		12.900	12.500	12.166	**37.566**	18
20	AUT	4.90	4.90	4.60	**4.800**	19	7.700	7.300	7.133	**7.377**	18		12.600	12.200	11.733	**36.533**	20
21	CZE	4.70	4.80	4.10	**4.533**	22	6.966	6.733	7.133	**6.944**	22		11.666	11.533	11.233	**34.432**	23
22	FIN	5.20	4.60	4.30	**4.700**	21	7.400	6.900	6.133	**6.811**	24		12.600	11.500	10.433	**34.533**	22
23	TPE	4.50	4.90	4.10	**4.500**	23	7.033	6.600	7.033	**6.888**	23		11.533	11.500	11.133	**34.166**	24
24	ARG	4.90	4.20	4.30	**4.466**	24	7.600	7.466	7.366	**7.477**	14		12.500	11.666	11.666	**35.832**	21

表-5　段違い平行棒　予選上位 8 チームの組み合わせ点

予選順位	国	組み合わせ点					
		選手A	選手B	選手C	選手D	合計	平均
1	USA	0.2	0.3	0.5	0.7	**1.70**	**0.425**
2	GBR	0.1	0.2	0.2	0.4	**0.90**	**0.225**
3	CHN	0.3	0.7	0.3	0.2	**1.50**	**0.375**
4	BRA	0.3	0.4	0.6	0.3	**1.60**	**0.400**
5	ITA	0.5	0.3	0.3	0.4	**1.50**	**0.375**
6	NED	0.2	0.3	0.5	0.5	**1.50**	**0.375**
7	FRA	0.2	0.2	0.3	0.4	**1.10**	**0.275**
8	JPN	0.1	0.3	0.2	0.1	**0.70**	**0.175**

＜成績概況＞

予選における日本チームの段違い平行棒の結果は、D スコア順位 15 位、E スコア順位 13 位、チーム得点の順位 15 位であり、この結果をみても日本チームは段違い平行棒のスコアで順位を落としていることが明白である。日本のチーム得点となる 3 人の演技の D スコアの平均は 5.266 で、上位国と比較しても大きく差をつけられている。予選上位 7 カ国は、段違い平行棒の D スコアの順位も上位 7 位に入っている。演技の内容をみると、予選上位 7 カ国が獲得している組み合わせ点と日本の組み合わせ点を比較すると差があることがわかる。（表-5 参照）予選上位 7 カ国のチームの 4 選手が獲得している組み合わせ点はそれぞれ 0.20～0.30 またはそれ以上であるが、日本の 4 選手の平均は 0.175 であり、獲得した組み合わせ点は圧倒的に低い。E スコアの比較を見ても日本チームのチーム得点となった 3 演技の平均は 7.555 で E スコア順位は 24 チーム中 13 位であった。上位 7 チームのうち日本よりも E スコアの平均が低かったのは ITA であるが、ITA はチーム得点に入る 3 演技に落下を伴う大過失がある

演技が入ったため、チーム得点が大きく下がってしまった。しかし ITA は大過失がある演技がチーム得点に入っても高い D スコアを獲得しているため、チーム得点の順位は 24 チーム中 8 位に位置している。日本は、チーム得点に入る 3 演技には大過失はなかったものの得点を伸ばすことができなかった。また、注目したいのはパリオリンピックの団体出場を逃した GER である。D スコアは 3 演技の平均が 5.20 で日本に次ぐ 16 位であるが、高い D スコアを獲得できなくとも欠点を減らした演技を実施し、E スコアは平均 7.921 で E スコアの順位は 6 位に位置している。当然高い D スコアを獲得することが上位に食い込むためには必要であるが、確実な技の実施と欠点のない演技によって E スコアを上げることも順位を上げるための必要な条件といえる。

＜課題＞

今回日本は、現地での器械器具への調整が難航してやむなく演技構成を変更して競技に臨んだことからスコアを下げることになってしまったり、演技をした 4 選手のうち 1 演技が大過失のある演技となってしまったこともありスコアを伸ばすことができなかった。しかし、団体決勝の結果（表-2　団体決勝各国の種目スコア参照）をみても、D スコアは 8 チーム中 8 番目、E スコアも大過失がなくても 7 番目のスコアであり、上位と戦うには根本的な改革が必要であると感じた。技の習得は一朝一夕とはいかず、基礎基本を習得するジュニア期からの長期的な強化が絶対的に必要である。長期的な視点から高い D スコアの獲得だけを目指すのではなく大きな振幅を伴うスイングや支持回転系の技、欠点のないけ上がり、振り上げ倒立の習得に励んでいただきたい。

平均台：

予選における平均台のチーム得点・チーム D スコア・チーム E スコアの結果は、表-6 のとおり。

表-6　予選上位 13 カ国の平均台のチーム得点と D・E スコアの平均

予選順位	国	Dスコア					Eスコア					ND	種目スコア			チーム得点	種目順位
		選手A	選手B	選手C	D平均	D順位	選手A	選手B	選手C	E平均	E順位		選手A	選手B	選手C		
1	USA	6.30	5.90	5.40	**5.866**	2	8.266	8.133	7.966	**8.121**	1		14.566	14.033	13.366	**41.965**	2
2	GBR	5.80	5.60	5.80	**5.733**	4	8.200	7.833	7.466	**7.833**	5		14.000	13.433	13.266	**40.699**	3
3	CHN	6.40	6.30	6.30	**6.333**	1	8.100	7.800	7.766	**7.888**	4		14.500	14.100	14.066	**42.666**	1
4	BRA	5.90	5.30	5.30	**5.500**	9	7.900	8.100	8.000	**8.000**	2		13.800	13.400	13.200	**40.400**	4
5	ITA	5.50	5.50	5.30	**5.433**	10	8.166	7.900	7.900	**7.988**	3		13.666	13.400	13.200	**40.266**	5
6	NED	5.30	5.40	5.10	**5.266**	14	8.433	7.800	7.033	**7.755**	6		13.733	13.200	12.133	**39.066**	10
7	FRA	5.80	5.40	5.70	**5.633**	5	7.600	7.633	7.033	**7.422**	10		13.400	13.033	12.733	**39.166**	9
8	JPN	5.90	5.30	5.50	**5.566**	7	8.100	7.866	7.200	**7.722**	8		14.000	13.166	12.700	**39.866**	6
9	AUS	5.60	5.90	5.30	**5.600**	6	8.000	7.233	7.300	**7.511**	9		13.600	13.133	12.600	**39.333**	8
10	ROU	6.20	5.60	5.50	**5.766**	3	7.466	7.266	6.933	**7.221**	15		13.666	12.866	12.433	**38.965**	11
11	KOR	5.60	5.40	5.60	**5.533**	8	7.466	7.366	6.200	**7.010**	18		13.066	12.766	11.800	**37.632**	14
12	CAN	5.80	5.20	4.90	**5.300**	13	7.766	7.000	7.133	**7.299**	13		13.566	12.200	11.933	**37.699**	13
13	GER	5.80	5.40	5.10	**5.433**	10	8.266	7.466	7.466	**7.732**	7		14.066	12.866	12.566	**39.498**	7

＜成績概況＞

今大会は、全体的に大過失が非常に少ない印象であった。予選の平均台の順位上位 9 カ国は演技した 4 人中 1 人以内の大過失に抑えている。特に、CHN、BRA、ITA、GER、FRA は演技した 4 人全員が大過失なく演技を行っていた。大過失がないことから、どの国も完成度が高かったことはわかるが、特に USA と BRA は E スコア平均が 8.000 以上であり、演技の出来栄えを含めて完成度の高い演技を行っていたことがわかる。予選の日本チームは、1 選手大過失があったものの、他 3 選手は大過失なく演

技を行い、E スコアの平均は 7.722 であった。予選上位 8 カ国の E スコア平均は、FRA が 7.422 だが日本を含めそれ以外の 7 カ国はすべて 7.500 以上の E スコア平均である。演技の中には 8 つ以上の技が入っているはずなので、単純に計算しても 1 つの技に対して 0.30 の減点がある場合は 7.500 を獲得することはできない。平均台はふらつきの度合いによって 0.10/0.30/0.50 と減点が細かく決められているため、1 つ 1 つの技の減点が少なく、ふらつきの少ない演技でなければ 7.500 以上のスコアを獲得できない。さらに高得点を獲得するには芸術性と構成の減点のない演技を行うことが必要である。

D スコアに関しては、予選の日本の順位は 7 位であった。上位の国と比較すると日本は組み合わせ点が低く、4 人の組み合わせ点の合計は 0.60 だった。組み合わせ点については、上から CHN（3.00）、USA（2.10）、GBR（1.60）、AUS（1.20）、BRA（0.90）、GER（0.90）、FRA（0.70）、日本（0.60）、NED（0.50）という結果だった。特に CHN は 1 つ 1 つの技が正確に実施されていて、着台の姿勢が乱れないため、どの技でも次に組み合わせられるのではないかという印象であった。

＜課題＞

日本は、ここ数年平均台で高いスコアを獲得しており、今大会でも跳馬と並んで 6 位という種目順位であった。段違い平行棒とゆかに比べると高い順位を獲得したが、他の国の大過失が少なかったことで昨年の種目順位 3 位からは下がる結果になった。日本選手は、技を正確に実施できる印象があり、1 つ 1 つの技の減点はそこまで多くないと感じている。しかし、演技全体を通してみると、上位の国と比べて技と動きの流動性や、動きのスピード、リズムの変化などは不十分だと感じる。また、1 つ 1 つの技を正確に実施できてはいるが、次の技へ繋げられるほどの余裕が感じられず、組み合わせ点の獲得については課題があると思う。平均台は日本が高いスコアを獲得できる種目であり、総合順位を上げていくためには確実に得点を獲得しなければならない種目である。これからさらに高得点を獲得するために、技以外のところも含め減点されない演技を目指してもらいたい。

ゆか：

予選におけるゆかのチーム得点・チーム D スコア・チーム E スコアの結果は、表-7 のとおり。

表-7　予選上位 13 カ国のゆかのチーム得点と D・E スコアの平均

予選順位	国	Dスコア					Eスコア					ND	種目スコア			チーム得点	種目順位
		選手A	選手B	選手C	D平均	D順位	選手A	選手B	選手C	E平均	E順位		選手A	選手B	選手C		
1	USA	6.70	5.70	6.20	**6.200**	1	7.933	8.100	7.433	**7.822**	9		14.633	13.800	13.633	**42.066**	1
2	GBR	6.20	5.60	5.60	**5.800**	2	8.200	8.033	7.566	**7.933**	6		14.400	13.633	13.166	**41.199**	2
3	CHN	5.60	5.60	5.10	**5.433**	6	8.166	7.766	7.733	**7.888**	8		13.766	13.366	12.833	**39.965**	5
4	BRA	6.10	5.70	5.30	**5.700**	3	7.933	8.133	7.900	**7.988**	3		14.033	13.833	13.200	**41.066**	3
5	ITA	5.60	5.40	5.30	**5.433**	6	8.100	8.100	7.966	**8.055**	1	-0.1	13.600	13.400	13.266	**40.266**	4
6	NED	5.80	4.80	5.00	**5.200**	12	7.933	8.266	7.900	**8.033**	2		13.733	13.066	12.900	**39.699**	6
7	FRA	5.50	5.60	4.90	**5.333**	9	7.933	7.800	7.100	**7.611**	14		13.433	13.300	12.000	**38.733**	9
8	JPN	5.80	5.30	5.30	**5.466**	5	7.533	7.333	7.300	**7.388**	22		13.333	12.633	12.600	**38.566**	11
9	AUS	5.00	5.70	5.10	**5.266**	11	7.766	7.366	7.733	**7.621**	13		12.766	12.766	12.733	**38.265**	13
10	ROU	6.00	5.50	5.10	**5.533**	4	7.666	7.700	7.633	**7.666**	12		13.666	13.200	12.733	**39.599**	7
11	KOR	5.30	5.40	5.50	**5.400**	8	7.700	7.600	7.033	**7.444**	18		13.000	12.700	12.533	**38.233**	14
12	CAN	5.40	4.90	4.90	**5.066**	14	8.100	7.833	7.766	**7.899**	7	-0.1	13.400	12.733	12.666	**38.799**	8
13	GER	5.30	4.60	4.90	**4.933**	15	8.000	8.133	7.800	**7.977**	4	-0.1	13.200	12.733	12.700	**38.633**	10

＜成績概況＞

今大会は特に着地の減点、芸術性の減点のウエイトが大きかったように感じる。着地については、ステップや大きなとび、さらに着地の姿勢に乱れがある場合には厳密に減点されており、コントロールさ

れた着地ができ、直立に近い体勢で着地ができているかが得点に大きく影響していた。次に、芸術性については、どの国も力を入れて取り組んできたことが演技に表れていた。ここ数年、FIG 技術委員長の Donatella SACCHI 氏が審判会議で芸術性についての話に多くの時間をかけて説明していたが、その部分が厳密に減点されていて、演技の中に芸術性と構成の減点項目に当てはまるものがあれば確実に減点されていた。１つ１つの項目は 0.10/0.30 だが、すべての項目を合わせると 1.60 の減点があり、芸術的な演技とそうでない演技のスコアは大きな差がついていた。

＜課題＞

今大会の予選 E スコアの日本の順位は 22 位であった。大きな要因としては、着地の減点と芸術性の減点が多かったことだと考える。まず着地については、日本選手は着地の姿勢に欠点がある実施が多かったように思う。特に頭が下がった姿勢で着地する場面が多く、さらにそこから前に大きく１歩出てしまうような着地の乱れが複数あった。高い体勢で着地をとることができれば、余分なステップやとびの減点だけで着地の姿勢に対しての減点はされないので、もう少し減点を抑えられるのではないかと思う。日本より上位に位置している国の選手は着地の乱れがなかったわけではないが、着地の姿勢が極端に低い（頭が下がる/腰が下がる）実施は日本に比べると少なかった。国内の競技会を振り返ると、日本選手はアクロバット系の技に高さがないことで着地の姿勢が低くなったり、高さはあっても着地の姿勢で頭が下がってしまったりする実施が多いように感じる。着地の取り方については減点をされない着地を心がけていく必要があると考える。

次に、芸術性については、日本にとって大きな課題となっている。特に「大きさ不十分」「身体の各部位が芸術的表現に十分関与していない」「音楽のスタイルと一致した表現力の欠如」については、他の国と比較すると不十分なところが目立つように思う。表情については、欧米の選手は笑顔だけではなく、音楽のイメージに合った表情で身体すべてを使って表現しており、審判だけでなく観客を巻き込んで演じている選手が多い。日本選手は音楽のイメージに合った表情を作れるようなトレーニングをしていく必要があり、さらに全身を使って演じることを目指していきたい。

今大会の予選の E スコアの順位が 22 位だったことは、今の日本の現状を表しており、ゆかの演技について何が求められているのかを理解し取り組んでいく必要がある。

所感：

今大会は、翌年開催される 2024 パリオリンピックの団体出場権をかけた非常に重要な競技会であった。結果的には、日本代表選手の活躍により見事予選第 8 位となり、団体決勝に進出するとともに 2024 パリオリンピックの団体出場権を獲得することができたが、予選競技では第 8 位となった日本からオリンピック出場権獲得が叶わなかった第 13 位のドイツまでの間の得点差はわずかであり、1 つのミスで逆転してしまう状況であった。日本女子は現在のところ 2008 年北京オリンピックから 5 大会連続で団体出場権を獲得しており、今やオリンピックに団体出場するのが当たり前のような感覚になっているが、現状をみれば安閑としてはいられない状況にある。この状況からも日本は、今回の結果に甘んずることなく、現在の日本が抱える課題を克服し、強化を進めていかねばならないと考える。

まず、最大の課題となるのは、段違い平行棒の強化であるといえる。世界の強豪国だけでなく、日本と台頭する国、また大会の順位では下位に位置する国と比較しても、演技構成面、基本技の姿勢や技術においても課題は山積である。今回、予選競技のすべての選手の段違い平行棒の演技を採点したが、段違い平行棒の基本技であるけ上がりから後ろ振り上げ倒立で姿勢欠点の減点が伴う実施をする選手はまずいないということに気付かされた。振り上げるときに肘が曲がったり、身体が反り上がったり、膝

やつま先が緩んだりする実施はまず見受けられなかった。もちろん失敗によってそのような姿勢欠点につながってしまった演技はあるが、大半の選手は肘、膝、つま先は緩まず、け上がりから低棒を支持した瞬間、一気に倒立姿勢になる実施であった。また、前振り、後ろ振り、回転系の振幅の大きさの違いにも差があることが感じられた。日本はここ何年も段違い平行棒の強化を提唱されてきているが、今大会の段違い平行棒のスコアに表れているように D スコア E スコアともに台頭する国々と大きく差をつけられてしまった状況にある。ただそれはスコアに表れているものだけでなく、スコアでは見えづらい１つ１つの運動の質にも差があることに着目しなければならない。直近のパリオリンピックに向けては、安定した演技、正確な技の実施が望まれるが、その先の 2028 ロサンゼルス、2032 ブリスベンオリンピックにむけては、中長期的な視点からまず基本技の正しい技術の習得に取り組んでもらいたい。特にジュニア期の選手にはけ上がりから後ろ振り上げ倒立の技術の習得、倒立姿勢の改善、身体を最大限伸ばした大きさのある前振り・後ろ振り、棒の反動を使った振幅の大きい回転系の習得に重点を置きトレーニングに励んでいただきたい。

次に、すべての種目における宙返りの着地姿勢の改善の必要性についてである。いかに着地を止められるかどうか、そしてどのような姿勢で着地をしたか、着地が止まらなくても着地後の踏み出し、とびをいかに最小限に抑えるかが減点を抑えるためには大きな鍵となってくる。着地が止まったとしても腰の位置が低くなったり、頭の位置が前かがみになって低い姿勢になってしまった実施は大きく減点されてしまうが、着地が弾んでわずかに跳んでしまっても直立に近い体勢であれば、減点は 0.1 ないし 0.3 程度に収めることができるため、高い着地姿勢をとることは非常に重要である。今大会、日本選手は普段使用しない器具になかなか合わせられず思うように蹴れなかったり、着地ができなかったり、器具調整に苦戦を強いられた。特にゆかにおいては、国内競技会では心配のなかった技も思うように蹴れず、着地姿勢も低くなってしまったため、E スコアは伸びず、ゆかの順位を大きく下げてしまう結果となった。当然、しっかり蹴ることができなければ、余裕のある着地はできないため、日本の代表選手にはどのような器具でも対応できる競技力も求めていかなければならないし、ジュニア期の選手には助走的要素といえるロンダート、後転とびの技術の見直し、正しい技術の習得も目指していただきたいと思う。それと同時に着地の先取りを考えた宙返りの実施、高い体勢をとる技術を習得してもらいたい。

次に、平均台、ゆかにおけるダンス系跳躍技（リープ、ホップ、ジャンプ）の姿勢、技術についてである。まず率直に表現すると、日本選手のダンス系跳躍技は欧米選手の跳躍技に比べ、高さが段違いに低い。これは先に述べた宙返り同様しっかりと蹴れていない、踏み込めていないことが１つの要因であると思う。ダンス系跳躍技においてもアクロバット系の技の習得過程と同様に踏み込むトレーニングや脚の振り上げ、身体の引き上げなどの基本的動作にも時間をかけ、高さ、大きさのある跳躍技を目指してほしい。また、ダンス系跳躍技の高さだけでなく、欧米選手と比べて差が生じているのは、身体の張り方である。日本選手のダンス系跳躍技は、開脚した際の脚や上体、頭部、腕、手先、足先すべてにおいてそれらの張りが十分ではない。同じ 180 度の開脚であっても、欧米の選手の実施は、開脚するスピードが速く、強さがあり、開脚している時間や跳躍自体の滞空時間も長く感じられるが、日本選手にはそれが感じられず、欠点が少なく正確なイメージはあるが、身体の張りがなく見え弱々しい印象を与えてしまう。平均台、ゆかにおけるダンス系跳躍技の実施は E スコアに大きく影響を及ぼす。アクロバット系の技の習得にかける時間と同じとまではいかないと思うが、特にジュニア期の選手には相応の時間をかけ、ダンス系の技の基礎基本を習得していただきたいと思う。

以上